



全国植樹祭とは

全国植樹祭は、天皇后両陛下のご臨席のもと、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する理解を深めるため、昭和25年から各都道府県を巡って毎年春季に開催されている国土緑化運動の中心的な行事です。

5月26日に、ジップアリーナ岡山（岡山県岡山市）で、「晴れの国 光で育つ 緑の心」をテーマに「第74回全国植樹祭」が開催されました。

岡山県では、昭和42年に岡山市の金山山頂で「第18回全国植樹祭」が開かれて以来、今大会が2回目の開催となります。

式典では、額賀衆議院議長（大会会長）と伊原木岡山県知事のあいさつの後、天皇陛下から「現在では、木を伐って、使って、植えて、育てるという林業のサイクルを循環させる取組が推進されるとともに、花粉の少ない少花粉スギやヒノキへの植替えが進められるなど、森林が守り育てられていることを喜ばしく思います。また、循環型の木材の利用や健全な森林づくりの輪が、ここ岡山の地から全国へ広がり、そして将来の世代へとつながっていくことを願います」とのおことばを賜りました。

続いて、全国の緑化功労者や全日本学校関係緑化コンクール等の表彰、岡山県立勝間田高等学校の生徒から坂本農林水産大臣等への少花粉ヒノキ等の苗木の贈呈、大会会長や坂本大臣等による記念植樹が行われました。

両陛下におかれては、天皇陛下がアカマツ、少花粉ヒノキ、少花粉スギの苗木を、皇后陛下がクロガネモチ、アテツマンサク、キクザクラの苗木をお手植えされました。また、天皇陛下は少花粉ヒノキと少花粉スギの種を、皇后陛下はヤマザクラとイロハモミジの種をお手播きされました。

さらに、式典中のアトラクションでは、岡山県の高校生が岡山の森林に興味を抱き、自然と人間の関わり方について議論や体験を通し、いかに豊かな森林を未来へ引き継ぐかを、演劇により表現しました。

最後に、濱田国土緑化推進機構理事長や森林組合、高校生、みどりの少年隊が大会宣言を行い、岡山県知事から、次回、全国植樹祭が開催される埼玉県の大野知事に、全国植樹祭のシンボルである「木製地球儀」が手渡されました。

第75回全国植樹祭は、埼玉県秩父市、小鹿野町を主会場に開催される予定です。



おことばを述べられる天皇陛下



アカマツ、少花粉ヒノキ、少花粉スギをお手植えになる天皇陛下



岡山県立勝間田高等学校の生徒から苗木を受け取る坂本農林水産大臣



岡山県の高校生たちによるアトラクション